

三 (一七八三)
天明三年七月 吾妻郡岩井村の浅間焼け諸入用覚帳 (C)

(表紙)

岩井村

天明三卯之
七月八日荒ニ付 村諸入用覚帳

名主

平治右衛門

七月廿日
一四百四拾四文

是ハ、大交ニ付、田畑流失^{かたがた}、御届ケとして、組頭要右衛門「伊勢町御役所江罷出候所」、通路無^レ之ニ付、三晚泊り、長野原^ニ廻り往来致候入用・小夫^{こづかい}也

七月廿六日
一貳拾四文

伊勢町へ御用状遣候節、「綱くりにて中之条へ遣候付、」中之条^{ちのじょう}いせ町迄之状ちん、則御用状ニ詰付^(粘)遣候

七月廿九日
一貳拾四文

伊勢町へ御用状遣候實、「右同断

七月廿九日
一三拾貳文

是ハ、原田清右衛門様大戸^ニ御泊り被^レ遊候節、当村^(宿)方組頭^又兵衛・伊八、御機嫌^{ごきげん}伺^{かひ}として、大戸へ罷越申所、かへりおそく^(蠟燭)夜ニ入申候故、此節、途中ニ而^レらうそく相調申代也

七月卅日
一貳百廿四文

是ハ、原田清右衛門様箱島村「御泊之節、荒所絵図面差」上申度、当村^方伊八・忠五郎^ニ兩人、箱島村へ罷出申候時之小夫宿払、箱島村へ払

但し箱島ハ夜ノ九ツ過出立にて、「奥田村ニ泊り、かへり申候由

八月朔日
一五拾文

伊勢町御役所へ、八朔^{はつごけ}之御祝儀^{ごじゆいぎ}ニ、組頭要右衛門罷出候^節之小夫、但し、当日ハ郷原廻り

同日
一百五拾文

わらぢ廿足代、与一兵衛ニ払、是ハ、中井吉郎兵衛様・山下吉右衛門様「御兩人、箱島方入り方へ御越之」節、御先触も無^レ之押掛御出被^レ成候所、駕籠人足急々ニ付、名主所へ節句礼ニ参居^{まゐりお}候者頼、川戸村迄継送り申候、此時之人足へ銘々に、わらぢ志足ツ、遣申候

一拾貳文

荒田畑之場所江、目印立札^ニ之つけ記代

一六拾文

たまこ十貳代

一四百五拾文

酒三升六合代

一三百文

重五郎方へ「御休之時之茶代」御吸物代等

但し是者、原田清右衛門様御通行^ニ之節、当村御弁当ニ付、御酒杯^{ごさかづ}御供方へ振舞申候入用也

但し七月卅日也

前ニ書落候故、此所出也

八月四日
一廿四文

是ハ、藤村官藏様方伊勢町「御役所江之御用状、綱渡しニ」可^レ仕哉之趣、伊勢町へ御伺^{かひ}申候節之状實

八月四日
一廿四文

右御用状、彌^よ綱渡しニ可^レ仕之旨、伊勢町御役所^方被^レ仰遣候間、則綱渡し仕候、此時中ノ条方伊勢町迄之状實

(後略)